昭和初期の若者とともに学んだ カルシュ博士

自然のなかでの人々との共生
（令和2年1月31日）

東京医科歯科大学 名誉教授　若松 秀俊

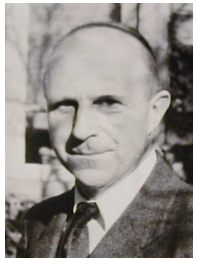
大正14年から昭和14年まで

歴史の狭間に埋もれた

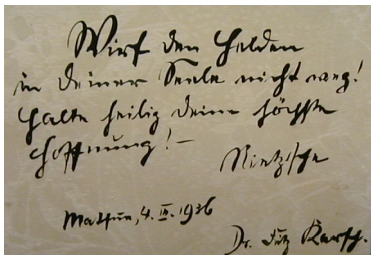
旧制松江高校教官　カルシュ博士の
周辺との関わり

美しい自然の中で暮らした戦前の思い出

若者に贈った言葉



フリッツ カルシュ
1893-1971



汝の心から《英雄の気》を失うことなかれ
《気高き大望》を汝の胸に抱き続けよ
若松秀俊　訳

大山を夢みたカルシュ

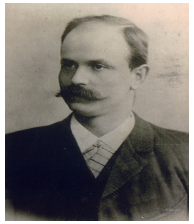
中海の向こうに見える雄峰大山 カルシュ自筆
フリッツ・カルシュは幼少の頃、まだ見たことのなかった
大山の夢を何度も見たと語っていた。

東京医科歯科大学　名誉教授 若松秀俊

wakamatsu.bse@tmd.ac.jp

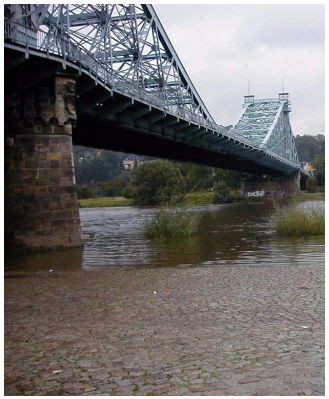
フリッツ 16歳

母:ルイーゼ

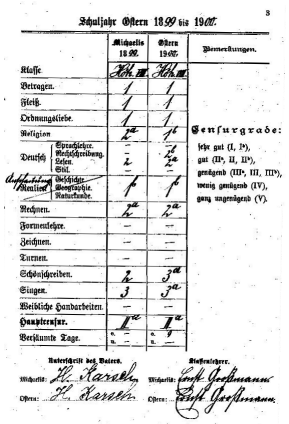


父:ヘルマン

エルベ河沿岸ブラゼヴィッツの生家



ブラウエス ブンダー（青の不思議） と
呼ばれるロシュビッツ橋

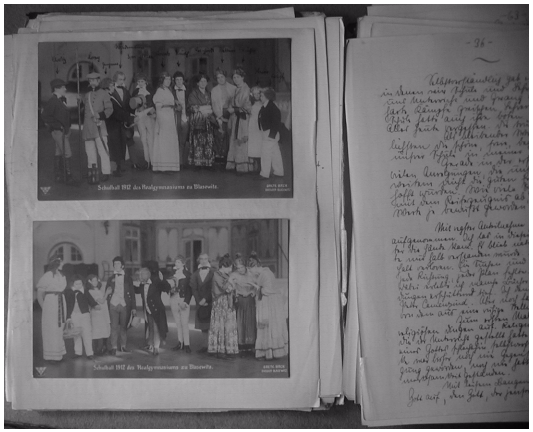


Schuljahr Ostern 1899 bis 1900.

	Michaelis 1899.	Ostern 1900.	Bemerkungen.
Klasse.	Sekt. III	Sekt. III	
Betragen.	1	1	
Fleiß.	1	1	
Ordnungsliebe.	1	1	
Religion	2a	1b	Censurgrade:
Deutsch: Sprachlehre.	–	2	sehr gut (I, Ia),
Deutsch: Rechtschreibung.	–	2	gut (IIa, II, IIb),
Deutsch: Lesen.	2	2a	genügend (IIIa, III, IIIb),
Deutsch: Stil.	–	–	wenig genügend (IV),
Geschichte (Mythen)	1	1	ganz ungenügend (V).
Geschichte: Menschlehre.			
Geschichte: Naturkunde.			
Rechnen.	2a	2a	
Formenlehre.	–	–	
Zeichnen.	–	–	
Turnen.	–	–	
Schönschreiben.	2	3a	
Singen.	3	3a	
Weibliche Handarbeiten.	–	–	
Hauptcensur.	1a	1a	
Versäumte Tage.	0. –	0. 1	

Unterschrift des Vaters. Klassenlehrer.
Michaelis: H. Karsch Michaelis: Erich Goetzmann
Ostern: H. Karsch Ostern: Erich Goetzmann

小学一年生の時の成績表



フリッツ青春時代の日記

日本の教育の礎となったカルシュ

戦後活躍した著名な人を薫陶

赤澤正道　衆議院議員自治大臣
細田吉蔵　衆議院議員　総務会長、閣僚歴任
田総武光　鳥取大学名誉教授 英文学
庄司保親　実業家、政治家
永井　隆　長崎の鐘　長崎医科大学教授 放射線学
福永健司　衆議院議長、内閣官房長官、総務会長、閣僚歴任
花森安治　暮らしの手帖　編集者
奥野良臣　大阪大学名誉教授 微生物学者
和島岩吉　法律家　高等裁長官
古田紹欽　東京大学名誉教授 哲学者
山手満男　衆議院議員　閣僚
宮田正信　滋賀大学名誉教授 国文学
酒井勝郎　島根大学名誉教授 化学
…… …… ……

参考　Patrick Lafcadio Hearn (英) (1850–1904)
松江尋常中学校(現松江北高校), 松江師範学校(現島根大学),
第五高等学校(現熊ｌ大学)の英語教師

旧大橋に佇む松江高校生　白石より提供

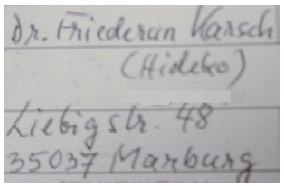
松江高校自習寮　白石提供

1932年　弓道披露　記念祭　澤田提供

1934年記念祭の演劇の後で　奥野提供

偶然の出会い

1999年9月5日シュトゥットガルトのホテルで撮影。フリーデルンと若松



フリーデルンの住所を書付けた紙片

ホテル・アム・フリーデンスプラッツ

カルシュの教え子

2001年2月9日　芦屋にて
左より奥野　松本　宮田　白石

2001年5月10日東洋経済二木会にて
細田・岡崎とともに

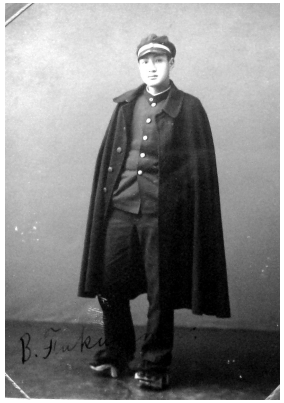
2001年3月28日博多駅付近のレストランにて
増田とともに

2002年10月26日金沢の自宅で澤田弘夫

東京医科歯科大学　名誉教授 若松秀俊

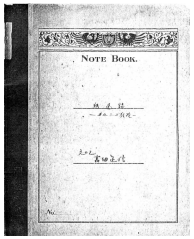
wakamatsu.bse@tmd.ac.jp

ハーンの旧居を訪問したときのフリッツ・メヒテルト・高畠

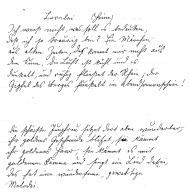


高校生の典型的な服装

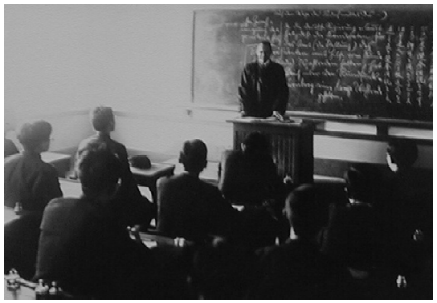
当時「活見」と呼ばれた映画鑑賞 白石提供



1931年当時の宮田青年のノート



ローレライの歌詞（宮田自筆）



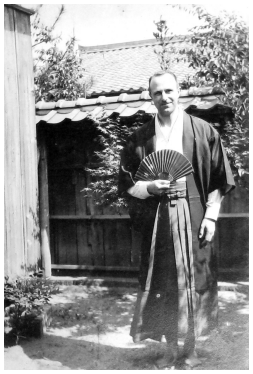
カルシュ先生の講義風景九期文乙（1932年）

昭和5年7月、明治神宮外苑競技場における優勝の記念写真（白石氏提供）後列中央が総合優勝旗をもつ田村忠雄主将その右隣がトラック優勝旗をもつ小川卓三選手

松江高校対大阪高 校 野球大会, 1935年

水泳部の仲間とともに 速藤による

地域の人々とともに



多田義延宅での和服姿のカルシュ夫妻

地に足のついた地域生活

大正15年頃　桑の収穫時

大正15年頃　農家のニンジン収穫時

田園の風景

大正15年10月　米の収穫

昭和2年12月　大根の収穫と干し大根

地に足のついた地域生活

大正15年10月頃　松江南、旧大名通り

東京医科歯科大学　名誉教授 若松秀俊

wakamatsu.bse@tmd.ac.jp

外国人の集い

1926年頃　軽井沢の街並み

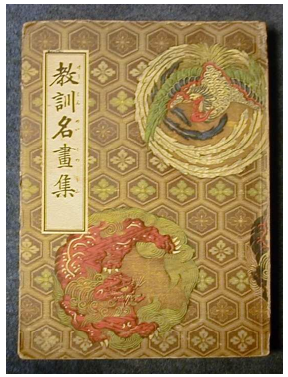
軽井沢　半田山の別荘にて

富士山を眺めて

当時のカルシュ家（官舎）

近所の仲良し

後列左から永田フミ子、高橋とし子、メヒテルト
前列左から高島キミ子、小豆沢史（1937年頃）



メヒテルトに父フリッツより与えられた教訓名画集と絵本の一部

お気に入り人形

東京医科歯科大学　名誉教授 若松秀俊

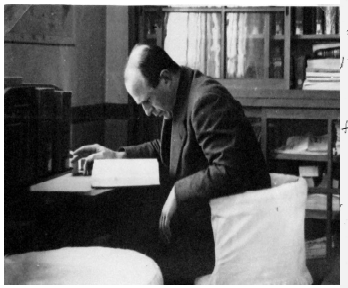
wakamatsu.bse@tmd.ac.jp

学園祭での子供たち

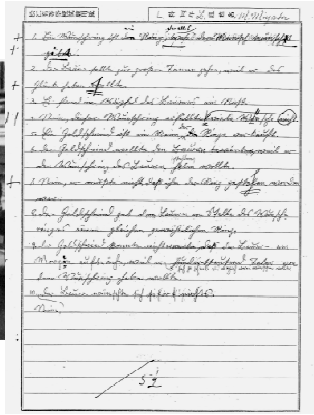
1935年 模擬店の前での記念写真（奥野提供）

自習寮での生活の様子　遠藤の提供

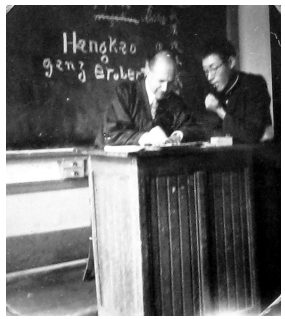
万年床の自習寮の生活　遠藤の提供



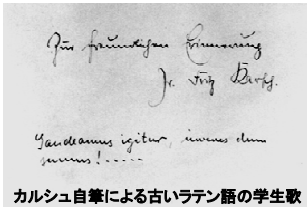
松江高校　職員室内のカルシュ



宮田青年の宿題の添削結果



学生の質問に答えて



カルシュ自筆による古いラテン語の学生歌

遠足　嵩山で　1927年4月

東京医科歯科大学　名誉教授 若松秀俊

wakamatsu.bse@tmd.ac.jp

テオドール・アクセンフェルト 1867 -1931（元フライブルク大学教授）
モラクセラ・ラクナータ菌を発見、日本の眼科学に大きな影響

エディット ピヒト-アクセンフェルト(1914-2001)

1937年 ショパンコンクール入賞
ピアニスト・チェンバリスト
元フライブルク国立音楽大学教授
戦後　多くの日本人弟子を育成
草津での定期音楽会開催

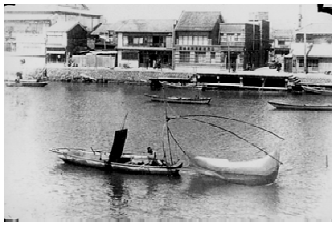
メヒテルトの母エンメラの従妹

アクセンフェルトフライブルク大学眼科学教授の末娘

袖師ヶ浦の地蔵

宍道湖　奥野臣の提供

昭和6年5月大火　松江東本町付近



大橋川　四ツ手網による白魚漁

昭和天皇の即位御大典記念の官行列 昭和３年

ホーランエンヤ神幸祭　昭和４年

カルシュ博士の講義内容から

ハルトマンの指導下で学位を取得し、さらに**シュタイナーの影響**を受けたカルシュは後に、『ヨーロッパ文明の没落』の著書で有名なシュペングラーと同様に、根本精神の欠落している性急な歩みに対する批判だけでなく、人間性を肯定する可能性として《彼象》の世界を描き、さらに《彼象》の社会を実現し、そこで生きることを目指すことの重要性を当時の生徒達に語っている。

唯物主義に走り過ぎた病態にある文明に支えられているヨーロッパ諸国に文化の崩壊の時が来る。それも西暦二〇〇〇年頃といっている。この時期に全世界の人々の間に混乱が起り、大きな危機に直面するという。**驚くべきことに、これが、当時の講義の中で高校生に語られている。**ヨーロッパは物質文明の発達により、その精神が物質的成果のみの社会に閉じこめられていることと、そうした中で、社会も個人も自らを支える精神的根拠が希薄であって、不安定な状況に晒されていることをその理由に挙げている。

なお、《同質と異質》の《混在と調和》で特徴づけられる日本の文化の一面と、他の地域からの思想や文物を巧みに吸収してこれを融合する力を大きな特徴として指摘している。そして、**一つのものが他を滅亡させることなく共存している日本の文化の在りようは世界中の識者の注目するところであると語っていたという。**まさに、今日の世の有様を年代を含めて的確に予測していた。このことは混乱の時代に生きる我々にとって実に驚くべき洞察力であり、これらの講義内容を五期理乙の酒井勝郎が記録にとどめている。また、日本を離れるに際して、カルシュが生徒に語ったことをドイツ語の文章で印刷物として自ら残しているのは確かな証拠として極めて興味深い。

若松秀俊著　四ツ手網の記憶」より

カルシュの顕彰

2000年(平成12年)10月4日(水曜日)

忘れ去られた日本の恩師 ドイツ人哲学者

Riverview Resident Herbert St. Goar Honored in St. Goar, Germany

by Sonia Young

When **Mayor Walter Mallman** of St. Goar, Germany, received a copy of Chattanooga **Herbert St. Goar's** recent autobiography, *Taking Stock Of My Life*, he immediately began to make exciting plans, inviting St. Goar and his wife, **Maria**, to visit the town where St. Goar's ancestors lived a few hundred years ago. The longtime Riverview couple accepted the invitation, planning their trip to coincide with the town's traditional annual fireworks presentation, "The Rhine in Flames."

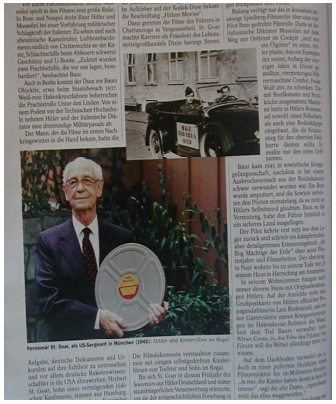
When Herbert and Maria arrived in Germany, they were surprised to learn that Herbert was being honored at a banquet, because his ancestors had been prominent merchants in this Rhine River city almost two centuries ago, and Herbert is a direct descendant of **Lazarus Wolf-St.Goar**, who was mayor of the town of St. Goar, from April 9, 1800, until April 9, 1805. At a festive dinner, the mayor presented his Chattanooga guest with a "Plate of Honor of St. Goar" and a detailed history of the St. Goar family they had researched and put together in his honor.

While in the city, the St. Goars enjoyed the fireworks display, which they viewed from a large boat, along with officials of St. Goar and other nearby towns. During his visit, St. Goar visited the town whose name his ancestors had adopted in the 17th century, when they moved from St. Goar to Frankfurt/Main. The town's hospitality was very heartwarming, according to the St. Goars.

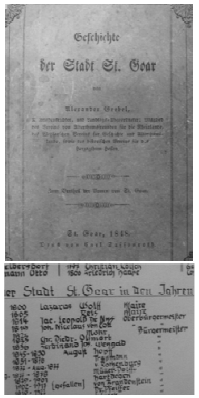
Although his ancestors were from St. Goar, Herbert was born in Hamburg, and lived there until he emigrated to the United States in 1938. He returned to Germany during World War II with the United States Armed Forces, in which he served as Section Chief of Intelligence for the Military Government for Bavaria in Munich. St. Goar served as President and CEO of the Dixie Saving Stores, Inc. for 30 years, until his retirement in 1989. He resides in Chattanooga with his wife, Maria. Son, **Edward**, daughter-in-law, **Rebecca**, and grandchildren, **Julia** and **Carl**, also live in Chattanooga, while daughter, **Elisabeth**, and her family live in Greensboro, North Carolina. Herbert St. Goar's book *Taking Stock Of My Life* was published in 2000.

Herbert & Maria St. Goar at Castle Rheinfels

ヘルベルト・メヒテルトのセイント・ゴア市訪問の報道



ヒトラーの側近バウアーの尋問時に押収した
16ミリカラー映画 シュピーゲル誌より
（写真はヘルベルト セイント・ゴアール）



セイント・ゴアール市の歴史書に
200年前の町長先祖の
ラツァルスの名が見られる

Hans Baur を後に診察したのが　若松のエルランゲン留学時代の友人、Dr. med. Peter Lederer

東京医科歯科大学　名誉教授 若松秀俊

wakamatsu.bse@tmd.ac.jp

カルシュの周辺

長女メヒテルトの夫ヘルベルト
「ヒトラーの行動記録(16ミリ)」を戦後ミュンヘンで押収
・保存
　ベルリンの博物館に歴史的重要資料として厳重保管

ラツァルス・セイント・ゴア（祖先）
ライン川流域のセイント・ゴア市の200年前の富豪で市長
宗教上の功績から聖（セイント）の称号を授与

メヒテルトの母方の祖先
ドイツ最古のエリザベート教会の創始者（一部未確認）

カルシュ調査に関する激励を大使のケストナー博士より受ける。左は日独協会花井理事　2000年7月18日ドイツ大使公邸にて

2005年　松江郷土館展示会

2013年　軽井沢町歴史民俗資料館展示会

ご視聴ありがとうございました

米国チャタヌーガの自宅と居間で愛猫と戯れるメヒテルト

東京医科歯科大学　名誉教授 若松秀俊

wakamatsu.bse@tmd.ac.jp